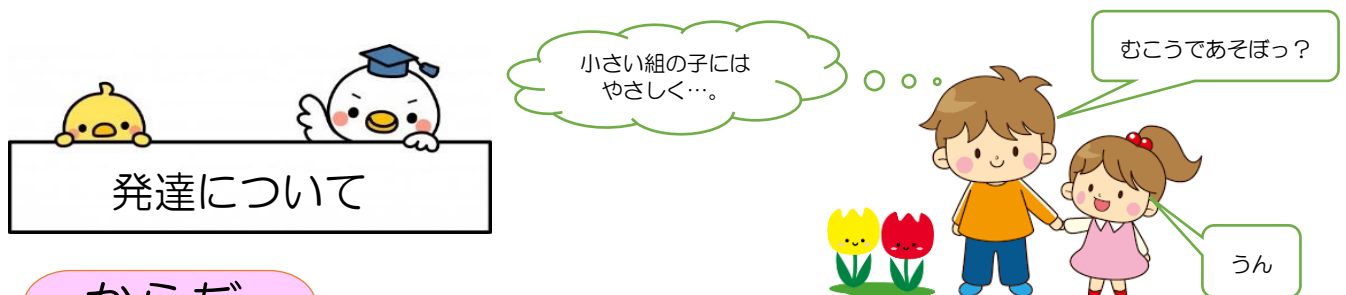




「つぶやき語」を使って自分の内面を見つめ、

絵本の世界を心で受け止め始める5歳児



からだ

全身の運動能力と手指の器用さがアップ。

全身の協応動作にしなやかさが加わります。手指の器用さも増し、道具類がスムーズに使えるようになります。また、やりきるという気持ちが生まれ、達成感が味わえるようになります。

ことば

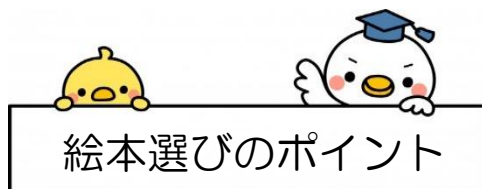
話ことばが確立。文字への興味も。

知っていることを再確認し、想像したことを話す「つぶやき語」が出始めます。また、就学に向けての興味の対象は文字へ。数字への理解も始まります。

社会性

年長としての自覚が生まれ集団の中での役割を理解する。

まわりが落ち着いて見えるようになり、集団の中で自我を発見し始めます。自分の役割や内面の気持ちに気づき、友達の個性を認めるようになります。



◇心情に訴え心に波紋を投げかける絵本

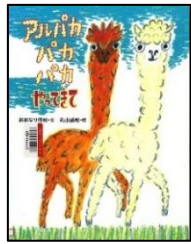
主人公の生き方に感動できるなど、子どもの内面に響くような絵本

◇自然科学や平和など知的要求に応える絵本

◇文章量の多い絵本や幼年童話

江南市立図書館スタッフが選んだ

5歳児のおすすめ絵本



『アルパカパカパカやってきて』
おおなり修司/文 丸山誠司/絵
絵本館 (Eア)

ある日、アルパカパカパカやってきた。アルパカパカパカ屋敷した。そして、カピバラバラバラやってきて…。さて次は、どんな動物がやってくるのでしょうか？ リズミカルでとても愉快なユーモア絵本。



『いろいろおしたく』
えがしらみちこ/作
小学館 (Eイ)

『おじさんのかさ』
佐野洋子/作・絵
講談社 (Eオ)



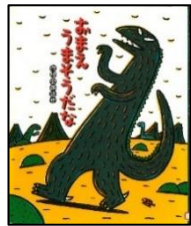
『う、のはなし』
小島こうき/作 ハマダミノル/絵
幻冬舎メディアコンサルティング (Eウ)

世界で一番、名前の短い鳥、鵜。先が曲がっている長いくちばし。黒く光る大きな羽。細長いからだ。昔から人は漁に、鵜を使ってきて…。鵜のひみつを選びあつめた、おもしろい絵本。



『けんかのきもち』
柴田愛子/文 伊藤秀男/絵
ポプラ社 (Eケ)

『こんとあき』
林明子/さく
福音館書店 (Eコ)



『おまえうまそうだな』
宮西達也/作絵
ポプラ社 (Eオ)

おなかをすかせた大きな恐竜が、あかちゃん恐竜を見つけてとびかかろうとすると…。お父さんにまちがえられた大きな恐竜と、あかちゃんの愛情の物語。



『さるかに』
松谷みよ子/[著]
長谷川義史/[画]
童心社 (Eサ)

『スイミー』
レオ・レオニ/作
谷川俊太郎/訳
好学社 (Eス)



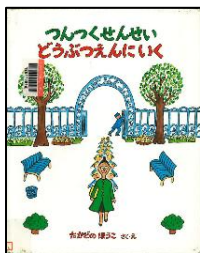
『カメレオンたんてい・ドロロン』
苅田澄子/作 伊藤夏紀/絵
あかね書房 (Eカ)

「図書館の本をぬすむどろぼうをつかまえて」と頼まれたカメレオン探偵のドロロン。あやしいのは、本を大切にしない図書館長のアライグマだが…。姿を隠しているドロロンを探したり、暗号を解いたりできる楽しいおはなし絵本。



『ちいさいわたし』
かさいまり/さく
おかだちあき/え
くもん出版 (Eチ)

『つつくせんせい
どうぶつえんにいく』
たかどのほうこ/さく・え
フレール館 (Eツ)



『すてきな三にんぐみ』
トミー=アングラー/さく いまえよしと/やく
偕成社 (Eス)

夜になると山からえものを探してやってくる、黒いマントと黒い帽子を目深にかぶった三人組。お金持ちの馬車を襲い宝物を奪っていくのです。ある夜三人が出会ったのは、みなしごの少女。三人組はどうしてすてきになったのか…。



『ふたりはともだち』
アーノルド・ローベル/作
三木卓/訳
文化出版局 (Eフ)

『ほげちゃん』
やぎたみこ/作
偕成社 (Eホ)



『トゲトゲくんはね、』
クォンジャギョン/ぶん ハワン/え いくたみほ/訳
パイインターナショナル (Eト)

自分の感情を正しく表現できず、周りの人への攻撃がやめられないトゲトゲくん。本当はみんなにわかってほしいのに…。トゲに覆われたような少年の心情と心の成長を通じ、「怒り」の感情について見つめる絵本。



『モチモチの木』
斎藤隆介/作
滝平二郎/絵
岩崎書店 (Eモ)

『やきそばばんばん』
はらぺこめがね/作・装丁
あかね書房 (Eヤ)

